

10月20日に尾道市の多門亭空き家再生活動を建築士会青年部で行った。多門亭は東土堂町の千光寺山南斜面に位置しており、木造2階建ての切妻屋根瓦葺、延べ面積は約350㎡で、50年ほど前までは料亭として使用されていたが、現在は空き家になっている。およそ10年前から各団体が修復を地道に行っており、このほど、国の登録有形文化財に選ばれる見通しとなった。今回の活動では1階の床の修復を行った。

当初は1部屋すべての修復を予定していたが、部屋奥の柱の腐食が著しかったため、今後柱を修理するスペースを残しての修復となった。修復の手順は、①既存床の腐食した根太を取り除き、②新たに大引き、根太を追加し、③床板(畳下)を取り付けるという順序で行った。



床修復前

尾道は平野部が少なく斜面に建てられている建築物が非常に多い地域となっており、そういった景色が尾道らしさを出し、観光客が増えているという話だが、斜面での建築は重機が入ることも出来ず、すべてを人力で行わなければならないため、普通の場合とは勝手が全く違って来る。今回修復する多門亭についても多分に漏れず山の中腹に位置しており、車では近づくことが出来ないため、資材や道具の搬入搬出を人力で行い、この運搬作業が最も大変な作業だった。

修復作業は青年部唯一の大工、長田棟梁の下行われた。始めのうちは紙面上で行う設計とは全く違い、現場合合わせということもあり、なかなか思ったように作業が進まず四苦八苦する場面もあったが、さすが建築士といったところか、作業を行うにつれて自然と役割分担ができ、大引きの設置から根太を固定する作業とスムーズに行うことができた。

床板を設置する際に、床板は必ず木裏を上にするという話が、私が最も興味深いと感じた話だ。なぜ木裏を上にするのかというと、理由は2つあり、1つめは、床板は時間がたつと板が徐々に反ってくるため、間違えて木表を上にしておくと、板の両端が反りあがってしまい、水分がそこに溜まりやすく、そのせいで腐食しやすくなってしまいうことがある。2つめは木裏の方が木表より木の芯に近いため腐食しにくく、摩擦にも強いという点である。これらの理由から、外壁に板を使用する際にも木裏を外側にするのが一般的らしい。



床の修復は半日という短い間で、若干どたばたと行ったような所もあったが、最終的にはしっかりとした床を無事に完成させることができた。

このような建築士会の活動は、意外と勉強になるため、この記事を見て多くの方に活動を知ってもらい、そして参加していただければ幸いである。



建築士

IROSHIMA



表紙写真について

沼田合同庁舎

- 設計・監理／株式会社K構造研究所
- 施工
建築／河井建設工業株式会社
- 電気設備／大亜工業株式会社
- 機械設備／塩田工業株式会社
- 自家発電設備／西部電工株式会社
- エレベーター、エスカレーター／フジテック株式会社
- 所在地／広島市安佐南区伴東七丁目64-8
- 用途／区役所出張所、公民館、老人いこいの家
- 構造・規模／鉄筋コンクリート造4階建て
- 敷地面積／2,565.15㎡
- 建築面積／1,139.60㎡
- 延床面積／3,768.88㎡
- 竣工／平成30年10月10日



「沼田合同庁舎」は区役所出張所、公民館、老人いこいの家の用途で構成され、地域コミュニティの活動拠点としての役割を担うもので、1階に交流スペースを、2階以上に各所を配置した。

旧沼田町から受け継がれてきた、自然や人々の活気を大切に、「つなぐ」ことを第一に考え、宙に浮くガラス建築とした。ガラスで覆うことにより鉄筋コンクリートから与えられる重厚感・圧迫感を和らげ、開放感のある空間を演出し、人々を内へと誘い、また内部の明かりが灯火となり拠り所となる。狭隘な敷地に沿った長方形の建築ながらも、内部では可動間仕切り等により空間に縛られない使い方が可能であり、人と人との活動をつないでいく。

内部からのガラス透過による開けた眺望のみならず、外部ではガラス面に映る空や山が沼田町を映し出し、語り継いでいく。都市部とは違うガラス建築のあり方がこの町を映し出していこう。

CONTENTS

表紙写真について	2	賛助会員紹介	8・9
年頭のご挨拶	3	地域だより・福山「第5回体験学習会報告」	10
義援金交付のご案内	4	作品紹介 掲載作品の会員紹介	12
CPD 認定プログラム(1～2月の県内実施分)	4	テラスコート牛田旭(広島支部)	13
ぶろじえくとニュース	4	浜田〇邸(広島支部)	14
「第16回ひろしま街づくりデザイン賞」表彰式を開催	5	向島・干汐の平屋(尾道支部)	15
美味しいけんちく④	5	建築士が関わる防災への取り組み	16・17
第9回「建築甲子園」について	6	地域だより・尾道「多門亭空き家再生活動」	18
地域だより・呉「けんちく講演会」	6		
「第35回呉建築セミナー」	7		

年頭のご挨拶

(公社)広島県建築士会 会長
元廣 清志



年頭にあたり会員の皆様
に謹んでごあいさつ申し上げ
ます。日頃から(公社)広島
県建築士会へのご支援を
いただき心よりお礼を申し
上げます。本年もより一層
のご支援、ご協力を賜りま
す様心よりお願い申し上げ
ます。

広島県建築士会では、会
員への情報提供や研修、交流、親睦などの行事による会員
活動はもとより、広く全ての建築士の自律的管理や、建築
や建築士の職能についての情報開示、伝達する責務、建築
やまちづくりに関すること等について、専門領域から情報
発信を行うなどの公益的事業活動にも力点を置いて活動
してまいりました。

昨年は、西日本豪雨災害により多くの県民の方々が被災
されたこと、心よりお見舞い申し上げます。災害に強いま
ちづくり、防災対応等の取り組みが急がれています。加え
て、今日の社会状況は、人口減少、社会構造の変化、経済
活動、県民意識の変化などによる生活スタイルの変化が引
き起こす技術者不足、労働者人口の減少など多くの問題が
発生しています。この構造的変化による新たな課題に、個
人、地域社会、団体などあらゆる立場で、対応する事が迫
られています。

そうした中で、私達建築士は、技術力の向上と、技術者
の養成などに努め、時代に合った住みやすいまちづくり
や、コミュニティーの維持再生に努力し、社会への貢献を
果たさなければならないと考えています。

建築士会では、今後のまちづくりのあり方と防災/歴史(景観) /福祉/街中/木造まちづくりなど、連合会
で検討を進め、県内でも各自治体へ協力しながら実践を
果たしている処です。今後、士会として取り組まなけれ
ばならない事として、まちづくりに関心を持った建築士
等の人材育成、自治体へのまちづくりに対する協力や情

報の共有、改革提言など自治体と共同して連携を図り、
まちづくり協力推進業務の受託、まちづくり関係建築士
に対する支援活動も進めていく処です。広島県建築士会
で取組中の処もありますが、国の施策と連動しながら今
後の社会づくりの為に大いなる目標にしていく事が求め
られています。

建築も、建築物を地域資産と考え、今後ストック(今あ
るもの)を活用する取り組みが必要です。長寿型への対
応も不可欠となっています。その為に空家対策や既存住
宅調査者(インスペクター)の推進と、ヘリテージマネー
ジャーの養成、防災では災害時現地派遣者の技術養成と確
保、自治体への災害時協力協定の推進や監理技術者の養成
を押し進めていきます。

又、2020年の小規模住宅省エネ基準への対策も不可欠
で、環境に配慮した住宅づくりのための技術者の育成を進
めてまいります。合わせて環境に優しい木質化の推進な
ども行政と建築関係団体と一丸となって取り組んでまい
ります。

各種講習会や建築士試験の受託に加え、「広島住まいづ
くり支援ネットワーク」「広島県木造住宅生産体制強化推
進協議会」など建築関連ネットワークの主幹事務局として
活動、広島県の取り組む「魅力ある建築物の創造」に関
する包括的協力、又広島県内各自治体からの相談にも応じ、
多様な公益的活動に取り組んでまいります。

本年は、2020年建築士会全国大会広島大会を目前にし、
その準備等の取り組みや、建築の資質保持の為、多様な社
会問題解決に挑戦する団体として、地域貢献、社会貢献に
努めます。仲間と共に手を携えより良い社会づくりに貢
献できるよう、なお一層努力してまいります。

建築士の皆様には、こぞって建築士会会員となって共に
活動して頂ければ、その達成はより早くより楽しいもの
になる事と思います。

なにとぞよろしくお願いを申し上げ、ご協力、ご指導賜
ります様お願いし、本年が皆様にとってすばらしい1年と
なります様祈念して年頭のごあいさつとします。

■ 被災された会員様はお申し出ください！ ■

この度の西日本豪雨により被災された会員の方々に、(公社)広島県建築士会に寄せられた義援金をお届けします。まず、事務局にご一報ください。

- 申請期限：平成31年1月31日【最終】
- 対象者：「罹災証明書」、「被災証明書」をお持ちの(公社)広島県建築士会の会員
- 事務局連絡先： TEL 082-244-6830 (代)
FAX 082-244-3840
E-MAIL info@k-hiroshima.or.jp

CPD 認定プログラム(1～2月の広島県内実施分)

2018年11月26日現在

日時	プログラム名	単位	主催	連絡先
1/10	監理技術者講習	6	広島県建築士会	082-244-6830
1/17	防火設備定期検査業務基準に関する実務講習会	4	日本建築士事務所協会連合会	082-221-0600
1/17	特定建築物定期調査業務基準に関する実務講習会	5	日本建築士事務所協会連合会	082-221-0600
1/19	H30広島県ヘリテージマネージャー養成講習会⑨	6	広島県建築士会	082-244-6830
1/24	開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会	5	日本建築士事務所協会連合会	082-221-0600
1/25	タイムマネジメントと心理有効活用 建設現場の業務効率化(後編)	6	インターウェブ	099-812-0677
2/2	H30広島県ヘリテージマネージャー養成講習会⑩	6	広島県建築士会	082-244-6830
2/6	一級/二級/木造建築士定期講習(6D-05)	6	広島県建築士会	082-244-6830
2/8	DIYリフォームアドバイザー資格認定講座	6	住環境教育協会	082-241-5707
2/12	開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会	5	日本建築士事務所協会連合会	082-221-0600
2/13	マンションを中心とした改修工事における「ここが知りたい」セミナー 第4回耐震改修工事勉強会	2	広島県建築士事務所協会	082-221-0600
2/14	監理技術者講習	6	広島県建築士会	082-244-6830
2/14	未来を拓く建設技術者～8つの管理とコミュニケーション～	6	インターウェブ	099-812-0677

ふるじえくと PROJECT NEWS ニュース

広島支部技術研修委員会

広島支部技術研修委員会は、本年度における士会会員等建築士の技術研鑽の場として、市内の世界平和記念聖堂とともに、第二次世界大戦後の建築物としては初めて重要文化財に指定されている広島平和記念資料館本館で行われている免震改修工事の現場見学会を計画しています。

□広島平和記念資料館本館

建物構造規模：鉄筋コンクリート造3階建て
延べ床面積：1,614.96㎡
工法：免震レトロフィット工法【錫プラグ入り積層ゴム支承4か所、天然ゴム系積層ゴム支承8か所、転がり支承8か所、増幅機構付き減衰装置8か所】

□日程：平成31年1月31日(木) 15:00～17:00

※現在、既存基礎躯体の補強が終わり、免震装置を設置するため更に地盤掘削が行われています。見学会では、新たな基礎となる耐圧盤(マットスラブ 厚さ1,650mm)の施工状況などを見学する予定です。

□参加者数：30名程度

重要文化財の免震工事を見学出来る貴重な機会となっています。会員皆様の参加をお待ちしています。参加募集の詳細については同封の案内チラシをご覧ください。

竹中工務店は「優良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念のもと、手がける建築の一つひとつを丹精込めてつくってきました。これからも人々が安全に安心して暮らすための「まちづくり」にグループの総力で貢献することによって、サステナブル社会を実現し、地球の未来についていきます。



想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKEMURA

株式会社 竹中工務店 本社：〒541-0053 大阪市中央区東船場4-1-13 TEL:06-6252-1201 / 東京支店：〒136-0075 東京都江戸川区東船場1-1-1 TEL:03-6810-6000

「第16回ひろしま街づくりデザイン賞」表彰式を開催

広島市都市整備局都市計画課都市デザイン係

広島市では、魅力ある街づくりを進めるために、街並みや自然への配慮がなされ、良好な景観の形成に貢献している建築物や活動などを募集し、優れたものを表彰する「ひろしま街づくりデザイン賞」を実施しています。

この度、「第16回ひろしま街づくりデザイン賞」の表彰式を紙屋町地下街シャレオ中央広場で11月29日(木)に開催し、165件の応募の中から、大賞1件、部門賞8件、奨励賞2件、広告賞1件を表彰し、松井一實広島市長より受賞者へ表彰状と副賞を贈呈しました。

大賞を受賞した「EKICITY HIROSHIMA」(設計者：戸田建設・アール・アイ・エー設計企業体)の関係者を代表して、EKICITY HIROSHIMA 全体管理組合の川崎



雅博理事長から「広島にふさわしい新たなランドマークとなるように、再開発事業の関係者全員が協力して街をデザインした結果、賑わいを創り出すことができました。EKICITY HIROSHIMA は関係者全員が地道に、真剣に街づくりに励んだ努力の賜物です。」とご挨拶を頂きました。

次回のひろしま街づくりデザイン賞の募集は、2019年度秋期から冬期頃までを予定しています。広島市のホームページや広報紙等でお知らせしますので、ふるってご参加ください。

※ひろしま街づくりデザイン賞の詳細は、広島市ホームページをご覧ください。

ひろしま街づくりデザイン賞 検索

美味しいけんちく

4

好きなけんちくの中で、美味しいものを頂くーこんなにたのしいことはありませんね。このコーナーでは、ミニ情報をお伝えします。

広報委員 神岡 千春

「京橋 香り家」のおためし蕎麦切り

第16回ひろしま街づくりデザイン賞部門賞を受賞した「香り家 京橋」、さっそく美味しいけんちくめぐりに行ってきました。

選考理由—河岸の自然景観の中で、金属質の幾何学的な形が程よいコントラストをなしている。斬新でありながら、木材を部分的に活用し、和とモダンを融合させた落ち着いたデザインとなっており、目立ち過ぎない建築色調と併せ、場に馴染んだ、さりげない佇まいとなっている。水の都ひろしまにふさわしく、品が良い好感が持てる建物である。

当日は、曇まじりの寒い日ということもあり、まず温かい鶏南蛮を頂きました。腰のある太めの田舎蕎麦に柚子の風味がアクセント。ランチは、かやくご飯が

無料でおかわりも自由です。「おためし蕎麦切り」は、もり汁と胡麻たれ2種類のつけだれを楽しめます。父方の出身地、新潟のへぎ蕎麦のような設えでも懐かしく頂きました。インテリアは、テーブル・椅子だけでなく食器やハンガーまでも和・モダンで統一され、細かい気遣いにも本当に感心!! 蕎麦の美味しい季節です。是非足を運んでみて下さい。



第9回「建築甲子園」について

MONTHLY No. 132にご報告した「高校生の建築甲子園」について、今年度の応募・審査状況をご報告します。今年度のテーマは、「地域のくらし～リノベーションの可能性」です。

県内からの応募は、2校3作品でした。当会社会活動委員会の住宅研究部会を中心としたメンバーにより審査し、県代表には、県立福山工業高等学校から応募の「鞆（共）につなぐ～可能性にあふれた町で～子供の将来・鞆の未来～」に決定しました。

本作品は、場所を鞆の地域とし、現存する廃校の中学校を「児童養護施設」として再生する提案です。特に評価さ

れた点は、虐待される子供の問題を取り上げ、子供の視点でとらえながら、地域環境（鞆の町、住民、高齢者）との繋がりを生かして、「子供達を教育し、成長させる施設」として位置付けている点でした。作品名にもあるように、地域の在り方、住まい方に言及するなど、郷土愛に溢れた現実的で多様な視点により検討していることは、単なるリノベーションを超えた提案との声も聞かれました。

応募数は例年より少なかったものの、これから、県代表として（公社）日本建築士会連合会での「全国大会」において、まずはベスト8に選考されることを大いに期待しているところでした。



事務局 上木 薫

地域だより
呉

第35回呉建築セミナー 村上徹「場所と建築」

第35回呉建築セミナーは、11月8日（木）に「つばき会館音楽ホール」で開催されました。

今治市出身の先生は広島で大学を卒業され、東京の内井昭蔵事務所に勤務された後、広島で設計事務所を設立されました。



今回のセミナーでは、マイクや映像のトラブルで、講演がたびたび中断し、先生やお客様に大変なご迷惑をおかけすることになりましたが、映像が中断したことで、東京勤務時代の内井事務所だけでなく、伊藤豊雄さんや長谷川逸子さん、安藤忠雄さんの話題など、貴重なお話を聞くこともできました。

当時の内井事務所では、非常に贅沢な建築の設計をされていたそうです。

そうした中で「自分自身の建築を広島で造りたい」という強い思いから広島に帰られたそうですが、そこで東京との大きなギャップに驚かれました。

東京では㎡あたり30万円が広島では坪あたり30万円。広島での設計にローコストを求められることはやむを得ませんでした。

当初はRC打ち放しではなく木造を考えられたそうですが、木造では法的な制約が多いため、木造と同じ工事費なら、そしてクライアントがOKなら、RCで造ろうということで、ローコストを求めながらも制約の少ないRCが主体となり、さらに建築の不要なものはそぎ落としてシンプルにする。これが村上建築の原点となり、独自の建築ができあがっていったそうです。



呉地区支部 事業委員会 武内 盟子



1988年の「坂町のアトリエ」は本当の自分の作り方が解り始め、実現できた重要な建築でした。この作品で1990年の日本建築家協会新人賞を受賞され、その後も皆様ご存知の通り、数々の賞を受賞されることとなりました。



内と外の境のないものを造りたい。景色を活かした見晴らしの良い、そして南向きの建物は古くからの日本の民家に近いものになっています。

芸術作品でありながら、住む人、使う人が快適に過ごせる村上先生の建築の素晴らしさがよくわかる講演となりました。

次回もたくさんの方のご来場をお待ちしています。



坂町のアトリエ

地域だより
呉

けんちく講演会 「タイ中部の洪水と共存する建築と暮らしー2011年洪水時のアユタヤ県パーンパーン地区の対応」

呉地区支部 野村 和宏

10月10日（水）に平成30年度の「けんちく講演会」を開催しました。今回は、呉工業高等専門学校建築学分野の岩城考信先生に「タイ中部の洪水と共存する建築と暮らし」というテーマでご講演いただきました。

先生は、以前に何年かタイで暮らされたことがあり、タイ語がペラペラだそうで、今回は学生さんと一緒にタイ中部にあるパーンパーンという村で調査をされました。

タイ中部は急傾斜な山国の日本と違い、1万分の1程度の勾配しかない、なだらかな土地に町や村が作られており、川の流れも緩やかなため、大雨が降ると毎年のように洪水が発生する環境だそうです。こうした洪水と共存していくことが、どれだけ大変なことか。

人間が生活していく中で、人間の都合の良いように自然や社会を変えていくのが当たり前になっています。パーンパーン地区の人々は、昔から繰り返される洪水という問題に「共存」を選択し、昔からの文化、知恵を使い盛土を行い高床式住居を作りました。そこにはタイ特有の自然に対応できる人々の技術が多く感じられます。私なら

行政などに対策を講じてもらいたいと思うところですが、パーンパーン地区の人々が自ら行う伝統的な洪水対策によって生きていく文化はすばらしいと思いました。岩城先生もこのすばらしい文化が、今後の政府の対応や技術進歩によって20年、30年後にはなくなってしまうかもしれないと言われていましたが、この研究を通じて人々の知恵を後世に伝えていくことの重要性を強く感じ、また、その研究を行う行動自体がすばらしいと思いました。



賛助会員を紹介します

江田島市都市整備課
市長 明岳 周作
〒737-2297 江田島市大柿町大原505
☎0823-43-1647
http://www.city.etajima.hiroshima.jp

大之木建設(株)
代表取締役社長 大之木 洋之介
〒737-8502 呉市中央3-12-4
☎0823-26-1511
http://www.onoki.co.jp

(有)キョウヤマ
代表取締役 三田 敏則
〒733-0012 広島市西区中広町
2-14-21
☎082-532-3067
http://kiyouyama.jp

グラフィソフトジャパン(株)
代表取締役社長 コバーチ・ベンツェ
〒107-0052 東京都港区赤坂
3-2-12-4F
☎03-5545-3800
http://www.graphisoft.co.jp/

(株)KI works
代表取締役 井手口 耕三
〒733-0815 広島市西区己斐上
2-69-16
☎082-881-1321
http://www.kiworks.info

ケイミュ(株)
広島営業所
所長 清水 満樹
〒730-0037 広島市中区中町7-1-3F
☎082-245-0354
http://www.kmew.co.jp/

(株)近藤典子 Home & Life 研究所
取締役 近藤 典子
〒162-0801 東京都新宿区山吹町
130-16-5F
☎03-3267-0533
http://www.hli.jp/

坂町役場
建設部産業建設課
町長 吉田 隆行
〒731-4393 安芸郡坂町平成ヶ浜
1-1-1
☎082-820-1510
http://www.town.saka.lg.jp

(株)ジェイ・イー・サポート
代表取締役 佐東 政明
〒730-0013 広島市中区八丁堀
15-8-6F
☎082-836-3300
http://www.jesupport.jp

(株)新広島設計
代表取締役 錦織 亮雄
〒730-0042 広島市中区国泰寺町
1-8-30
☎082-243-2751
http://www.shinhiro-sekkei.co.jp

(株)杉田三郎建築設計事務所
代表取締役 杉田 輝征
〒730-0012 広島市中区上八丁堀7-5
☎082-228-2345
http://www.saburo Sugita.com/

日建学院広島校
(株)セイブコーポレーション
代表取締役 仲西 毅
〒730-0016 広島市中区鞆町14-11
ウイング八丁堀ビル8F
☎082-223-2751

大成建設(株)
中国支店
執行役員支店長 江島 明
〒730-0041 広島市中区小町2-37
☎082-242-5301
http://www.taisei.co.jp

中国電力(株)
管財部門(建築)
部長 河野 倫範
〒730-8701 広島市中区小町4-33
☎082-544-2519
http://www.energia.co.jp

(株)ティーエス・ハマモト
代表取締役 濱本 利寿
〒731-0135 広島市安佐南区長束
4-17-7
☎082-238-1511
http://www.ts-h.co.jp

(株)東建ジオテック
広島支店
支店長 平本 和則
〒731-5128 広島市佐伯区五日市中央
3-10-7
☎082-299-5661
http://www.tokengeotec.co.jp/

TOTO(株)
中国支社
支社長 谷口 浩
〒734-0014 広島市南区宇品西
4-1-36
☎0570-03-7771
http://www.toto.co.jp/

東リ(株)
広島営業所
所長 川田 勝
〒733-0002 広島市西区楠木町
3-16-12
☎082-239-2858
http://www.toli.co.jp

(株)長崎塗装店
代表取締役 長崎 邦彦
〒733-0036 広島市西区観音新町
1-7-24
☎082-233-5600
http://www.nagasaki-tosho.co.jp

(株)長沼電業社
代表取締役社長 長沼 毅
〒730-0036 広島市中区袋町6-14
☎082-248-2501
http://www.naganuma.co.jp

(株)日経ビーピー
代表取締役 新実 傑
〒105-8308 東京都港区虎ノ門4-3-12
☎03-6811-8000
https://tech.nikkeibp.co.jp

日本 ERI(株)
広島支店
支店長 伊藤 直也
〒730-0013 広島市中区八丁堀
14-4-3F
☎082-211-5500
http://www.j-eri.co.jp

日本住宅パネル工業(協)
西日本支所広島営業所
営業所長 棧敷 重和
〒730-0841 広島市西区井口明神
1-14-43
☎082-270-3700
http://www.panekyo.or.jp

ハウスプラス中国住宅保証(株)
代表取締役社長 宮崎 弘起
〒730-0042 広島市中区国泰寺町
1-3-32
☎082-545-5607
http://www.jutakuhosho.com

広島ガス(株)
エネルギー事業部
家庭用エネルギー営業部長 柴萩 裕一
〒734-8555 広島市南区皆実町2-7-1
☎082-252-3022
http://www.hiroshima-gas.co.jp

(株)広島建築住宅センター
代表取締役社長 宮地 正人
〒730-0013 広島市中区八丁堀
15-10-3F
☎082-228-2220
http://www.hkjc.co.jp

(株)総合資格学院
広島支店
学院長 岸 隆司
〒730-0037 広島市中区中町7-35
和光中町ビル4F
☎082-542-3811
http://www.shikaku.co.jp

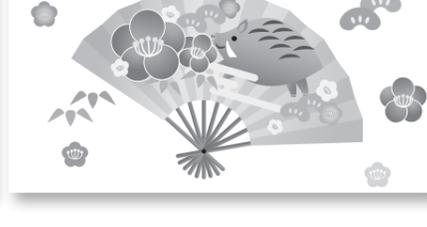
(株)マリモハウス
専務取締役 岩故 昌彦
〒733-0821 広島市西区庚午北
1-17-23
☎082-500-8391
http://www.marimohouse.co.jp/

丸大食品(株)
広島営業所
所長 藤本 吉則
〒733-0035 広島市西区南観音
6-11-32
☎082-293-2111
http://www.marudai.jp/corporate/

(株)ミヤジ
代表取締役社長 宮地 宏治
〒722-0051 尾道市東尾道9-10
☎0848-20-2111
http://www.e-miyaji.com

健康住宅の
(株)三幸ホームズ
代表取締役 眞田 幸康
〒734-0015 広島市南区宇品御幸
3丁目17-6
☎082-253-0788
http://www.miyukihomes.co.jp/

(有)元廣建築設計事務所
代表取締役 元廣 清志
〒722-0037 尾道市西御所町6-15
☎0848-23-5300
http://www.urban.ne.jp/home/madesign



指定確認検査機関(中国地方整備局長指定第1号) 登録住宅性能評価機関(中国地方整備局長登録第5号) 登録省エネ判定機関(中国地方整備局長登録第3号)
BELS 低炭素建築物 長期優良住宅 建築確認 住宅瑕疵保険 フラット35適合証明 住宅性能評価 省エネ適判

ハウスプラス中国は 迅速、的確な審査で、皆様の建物の安全、安心をサポートします。

中国エリアをすっばりカバーしています

中国電力グループ **ハウスプラス中国住宅保証株式会社**
http://www.jutakuhosho.com/

広島本店: 広島市中区国泰寺町1-3-32 国泰寺ビル
TEL: 082-545-5607 FAX: 082-545-5608
広島北支店: 広島市安佐南区西原6-9-40-7 TEL: 082-832-3310 FAX: 082-875-4330
福山支店: 福山市西深津町1-10-1 TEL: 084-973-9143 FAX: 084-973-9146

新築住宅 環境 ECO 対策

店舗デザイン

マンション修繕工事

賃貸マンションプロデュース

内外装リフォーム

電気事業

公共他工事

株式会社 **ティーエス・ハマモト**

新築工事から住宅リフォーム

マンション改修まで

お任せ下さい!

〒731-0135
広島市安佐南区長束4丁目16-2
TEL:082-238-1511 FAX:082-238-1513

ティーエス・ハマモト

福山支部 長岡みゆき

10月28日に開催しました体験学習会は今年で5回目となります。私たちが興味のあることを士会員、一般の方と一緒に体験をして学んでいこうという企画ではじまりました。



第1回～4回までは古来より建築塗料として使われてきた柿渋を基に、一閑張り体験、柿渋染め、柿渋塗り（飾り棚）、柿渋塗り（実践編：ウッドデッキ）と体験しながら柿渋の現代での使われ方などを体験を通して学びました。

第5回目となった今年は、和室の少なくなった現代の住宅であまり見かけなくなってきた障子紙にスポットをあてることにしました。



障子紙は折り曲げたり、色水で染めたりしても破れない丈夫な和紙なので。この和紙の良さを体験してもらうために、表具屋さんから半端になった障子紙をいただき、プチ袋にリユースすることにしました。講師の先生から障子紙のレクチャー、プチ袋の作り方の説明を受けていざ実践。適当にカットした障子紙をアコーディオン状に折り曲げて、好きな色の色水に浸けていきます。染めた障子紙はひとまず広げ、そしてアイロンを当てて乾かします。乾いたら自分の思う形にカットして貼り合わせてプチ袋の完成です。

当日の参加者は一般の方スタッフ講師の先生を含め13名の参加で和気あいあいと、自分好みの色とかたちのプチ袋が完成しました。



安全で安心な住まいづくりを 私たちがサポートします！



(公社)広島県建築士会と(一社)広島県建築士事務所協会会員をはじめ、
銀行、電力会社、弁護士、会計事務所など、
多くの方々のご賛同をいただき設立した会社です。

株式会社 広島建築住宅センター

業務内容

- 建築確認・検査
- 住宅性能評価
- フラット35
- 長期優良住宅
- 低炭素建築物
- 住宅かし担保責任保険
- 省エネ関連業務
- すまい給付金サポート
- リフォーム評価ナビ
- 地域型住宅グリーン化事業
- ベターリビングリフォーム審査業務

(株)広島建築住宅センター 本社

〒730-0013 広島市中区八丁堀15-10
TEL(082)228-2220 FAX(082)228-2231
E-mail info@hkjc.co.jp

福山営業所

〒720-0034 福山市若松町8-22
TEL(084)928-3979 FAX(084)928-3974
E-mail fukuyama@hkjc.co.jp

ホームページ <http://www.hkjc.co.jp>

「より早く・より親切に・より分かり易く」をモットーに
より確かなサービスを提供します

- 指定確認検査機関
- 登録建築物エネルギー消費性能判定機関
- 住宅瑕疵担保責任保険業務
- すまい給付金関連業務
- 指定構造計算適合性判定機関
- 適合証明業務（フラット35）
- 調査診断業務（遵法性調査等）
- 登録住宅性能評価機関
- 長期優良住宅認定審査業務
- 建築物省エネルギー性能表示制度（BELS）評価業務

株式会社 **ジェイ・イー・サポート**

URL <http://www.jesupport.jp/>

本社 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-8-6F
TEL : 082-836-3300 FAX : 082-228-8201
支店：東京 事務所：福岡
e-mail : mail@jesupport.jp

作品紹介 掲載作品の会員紹介

テラスコート牛田旭

広島支部

平田 欽也

デザインの方で、新しい価値の創造へ。人は誰も、心地よい空間に出会った時に幸せを感じるものです。私たちの仕事は絡み合った思考や条件を整理し、確かなデザイン力で空間づくりをサポートすることです。既存概念にとらわれない新しい価値の創造、ここにしかない空間を提案します。



アトリエ平田

〒731-5144 広島市佐伯区三筋三丁目5番3号
TEL 082-922-6700 FAX 082-922-6718
URL <http://www.at-hirata.com/>
E-mail m353@at-hirata.com

浜田O邸

広島支部

門谷 和雄

1945年の開設以来、地域のお客様の想いをかたちに多くの作品を残してまいりました。今後も中国地方において、広島を拠点にした地域密着型の対応で、キラリと光る作品創りを目指していきます。



株式会社 藤竹中工務店 広島支店 設計部
〒730-0015 広島市中区橋本町10-10
TEL 082-212-0093 FAX 082-212-0072
URL <http://www.takenaka.co.jp/>
E-mail kakimoto.tadanori@takenaka.co.jp

向島・干汐の平屋

尾道支部

濱田 昌範

個人住宅を中心に、保育園、病院、事務所等の実績もあり、用途にかかわらず新築から増改築まで取組んでいます。地域に根差した設計事務所として、何でも気軽にご相談ください。



株式会社 濱田昌範建築設計事務所
〒722-0052 広島県尾道市山波町570-9
TEL 0848-20-7312 FAX 0848-20-7313
URL <http://mh-architect.com>
E-mail hamada@mh-architect.com

テラスコート牛田旭

広島支部



連続するシンボルツリーとカーポート



住戸7 カーポートより各住戸のポーチを見る



[次の世代へと住み継ぐ「近所づきあいのある暮らし」]

この地に暮らす4世帯の親族が、次の世代へと繋ぐことを目的としてこのプロジェクトはスタートした。敷地は崖崩れの危険性が高い急傾斜地を抱えていて、開発許可による造成工事が必要だった。これらの工事資金を捻出するために賃貸事業が選択され、新たな住人を受け入れることで次の世代へと住み継ぐことが可能になった。「テラスコート牛田旭」は、建築主ご家族の希望で「近所づきあいのある暮らし」が描かれ、新たに整備された道路の平面部分をこの団地のコート（中庭）に見立て、中庭を介する生活により自然にコミュニティーが生まれることを委ねた。併せて、隣に住むオーナー親族とのお付き合い、入居要件とされた町内会参加を通じたコミュニティーの形成をも意図した。

[テラスハウス = 家族の気配が感じられる「現代の町屋」]

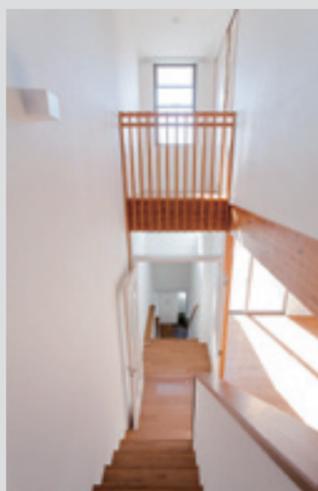
開かれた中庭に面したエントランスは、高さを抑えられてリズムカルに並び、建物の背景に見える竹藪に沿うように雁行させた。これにより共有する中庭から各住戸のプライバシーが守られ、建物の威圧感を和らげてくれる。また、テラスハウスが街並に見えるよう各住戸を分節し、住戸間の袖うだつが繰り返される外観など、伝統的な町屋の手法を参考にして取り入れた。南北に長い住戸は、日当たりのよい南側の2階に小さな書斎を設け、ここから階段のある吹き抜けを通して、建物の奥まで光や風が届くように工夫した。この吹抜を中心にそれぞれの空間が繋がっており、引き戸の開け閉めで生活シーンに合わせて繋がりが調整できる。家中どこにいても家族の気配が感じられ、開放的な住まいになった。アトリエ平田 平田欽也



コートで広がるご近所づきあい



住戸1-6 居間より食堂・台所を見る



住戸1-6 吹抜より書斎を見る

設計監理/アトリエ平田
施工/森信建設株式会社
所在地/広島市東区牛田旭二丁目2番40-1号
用途/テラスハウス 7戸
構造規模/木造(広島県産材) 2階建
延床面積/715.71㎡
住戸面積/住戸1~6/97.86㎡ 住戸7/102.74㎡
竣工/2017年1月
造成設計/株式会社studio TND
協力/NPO住環境研究会ひろしま

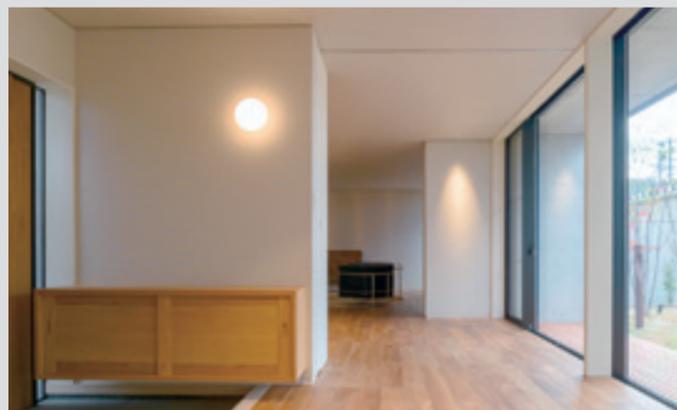
浜田〇邸

広島支部



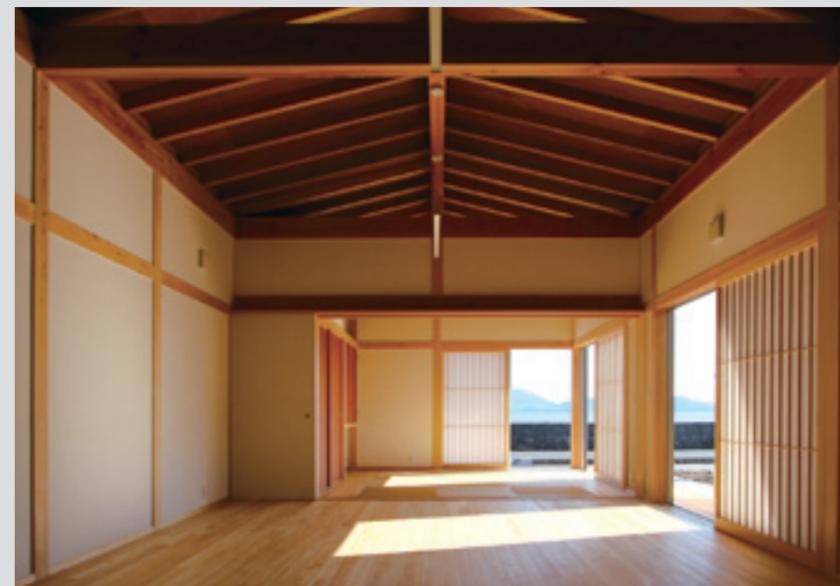
設計監理 / 株式会社竹中工務店
 施工 / 株式会社竹中工務店
 所在地 / 島根県浜田市
 用途 / 専用住宅
 構造規模 / RC造2階建て
 延床面積 / 284.09㎡
 竣工 / 2018年10月

隣家に囲まれた閑静な敷地に建つ専用住宅である。プライバシーの確保と緑豊かな景観を造り出すため、分節した目隠し壁と数多の樹木をリズムカルに配置した。堅牢な外装は木立の中に佇ませることで落ち着いた様相と化し、深く伸びやかな軒は、室内に適度な陰影を生み出すとともに、外部空間と内部空間を柔らかく繋げた心地よい居住空間の実現に寄与している。四季折々の緑の移ろいがその背景のRC化粧打ち放しのキャンパスに映し出され、近隣の方々に対しても心穏む住宅となるよう計画した。



向島・干汐の平屋

尾道支部



設計監理 / 株式会社 濱田昌範建築設計事務所
 施工 / ホーム株式会社
 所在地 / 広島県尾道市向島町
 用途 / 専用住宅
 構造規模 / 木造 平屋建て
 延床面積 / 133.73㎡
 竣工 / 2017年12月

施工主は東京での会社員生活に区切りを付け、郷里の親元の近くで、残りの人生を自然豊かな瀬戸内の海に囲まれながら生活がしたいとこの地を選び、目指す生活に相応しい住まいが欲しいと願った。その思いを受け竣工した住まいは、平屋建ての分棟配置に、近隣に合わせた勾配屋根を架け、付近に馴染んでいる。

平面は単純で解り易く、内外において動線の回遊性を重視し、玄関土間を基点に表と裏、公と私の行き来を自由に、別棟物置や濡れ縁を設え、ここでの生活の幅を広げる事に努めた。海と山に囲まれたロケーションを活かした、この敷地、この施工主ならではの住まいが出来上がったと思っている。



建築士が関わる 防災への取り組み

■ 防災紙芝居

「海の子・山の子・地球の子—大切なことってなんだろう」

広島支部 女性部会 福馬 晶子

平成30年8月27日(月)、府中町のひかり保育園で、園児を対象に、防災教育として、「海の子・山の子・地球の子—大切なことってなんだろう」の紙芝居を女性部会の片岡幸子さんを中心に、府中町北部民生委員協議会が大型の紙芝居を作成し、上演しました。

「海の子・山の子・地球の子—大切なことってなんだろう」は、宮城県建築士会が防災教育のために絵本を里生海歩子(作)大沼実恵(絵)で作成されたもので、平成29年度第27回全国女性建築士連絡協議会で報告されました。広島県建築士会広島支部でも防災教育として、この絵本をこどもの読み聞かせをしたら良いのではないかと盛り上がり、宮城県建築士会の方に了承を得たものです。

当日は、府中町北部院生委員協議会の民生委員の皆さん9人の演者と、ナレーションの片山さんで、災害とはどんなものがあるか、災害が起きた時にどうすればいいか、災害が起きないように地球を大事にしなければならないことなどを、子どもに分かりやすく大きな紙芝居を手にもって演じることにより、園児たちに

話しかけました。

園児たちは、問いかけなどに大きな声で応じ、しっかり理解してくれたことと思います。少しでも記憶に残り、防災について考えてもらえると良いと思いました。



■ 新聞紙でつくる防災グッズ

広島支部 女性部会 福馬 晶子

平成30年10月28日に、広島県建築士会広島支部は、ペアセロベという国際イベントを広島市中央公園芝生広場において行いました。

その中で、広島支部女性部会では、新聞紙で作る防



災グッズづくりのブースを出しました。

この度起こった平成30年7月6日豪雨災害でも、避難所は体育館などになり、勿論防災倉庫に毛布や乾パンなどがありますが、それ以外のものについては、数日たって落ち着くまでは、救援物資などは届きません。

その間に必要なものは、新聞紙などのあるもので作成しなくてはならない場合もあるのです。

いざというときにすぐ作れるように、新聞紙で色々作ってみようというのが今回の趣旨です。

まず、事前に、会員の家で新聞紙を使ったグッズを試しに作ってみました。コップ、お皿、スリッパな



折しも平成30年7月6日の豪雨により、広島県の中でも府中町、広島市、海田町、坂町、呉など、豪雨災害に見舞われ、防災教育の必要性が求められてきています。広島県建築士会女性部会及び広島支部女性部会では、引き続き、防災教育に力を入れています。

ど。コップなどは、ビニール袋を被せると、ちゃんと水が入り、飲むことができるので、会員の子供も大喜びでした。

当日は、さらにカラーのゴミ袋などを持って行ったので、ゴミ袋で作れるレインコートなども、楽しく

作って着たりできました。

いいお天気で、防災のことはともかく、子ども達も生き生きと楽しんでいました。あとはいざというときに思い出せれば良いなと思いました。

■ 見つけて学ぶ☆たても防災探検 PART2

社会活動委員会 女性部会 武内 盟子

平成30年11月23日(金・祝)、呉の広市民センターで、子供たちを対象に、建物火災を想定した避難学習をしました。



豪雨や地震などの天災に対する防災教育も私たち女性部会のテーマですが、今回は一昨年に引き続きPART2として、私たちの日常業務の知識を活かし、スプリンクラーや非常用照明、防火戸等の避難設備を実際に見ながら探検してもらう体験ツアーを実施しました。

まずは紙芝居で、どうやって逃げるかのクイズです。すぐに逃げるか火を消すか、逃げる時はエレベーターか階段か、パネルを挙げて回答し、正解した子はとても嬉しそうな笑顔です。



紙芝居の後は、実際に4階のイベント場所から1階の屋外まで避難です。途中の廊下の天井には、たくさんの器具が設置されています。子供たちに、「これなに？」とスプリンクラーを指さすと、「火を消す薬品が出る場所」となかなか鋭い答えが返ってきます。

「そう、火を消すための水が出てくるスプリンクラーと言うものよ。ボールとかが当たると、壊れて水が出てくるから、ボール遊びはしないでね。」と私たちが用意した赤ヘルをかぶった子供たちに質問しながら、探検は続きます。広市民センターの階段室は、常開の防火戸で区画されています。防災センターの許可をいただき実際に防火戸を閉めると、日常とは違う光景に、大人も子供も、閉じ込められて逃げられなくなった、と思ったようです。避難口のサインがついた扉から逃げることを伝えると、ほっとした様子。「参加して見ることで良かった。」と思わずつぶやく大人の方もいらっしゃいました。

排煙のボタンを押して窓を開いたり、消防隊の進入入口を説明したり、最後は防災センターの前まで行って、その役割の説明をして終了です。



真剣に耳を傾け、避難設備を体験して下さった100名近い方々に、私たちの防災への思いが伝わり、今後役立ててもらえることに、スタッフ一同、1階から4階まで何周もして体はくたくたになりながらも、心から充実感を感じる一日となりました。今後も続けていきたいと思っています。